



NPO法人 北摂こども文化協会
Hokusetsu Children Culture Association

VOL.
41

ハツクルペリー

Heckle Daily

- 北摂こども文化協会事務局
〒563-0024 池田市鉢塚3丁目4番13号
TEL:072-761-9245 FAX:072-761-9244
hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp
- 北摂こども文化協会豊能事務所
〒563-0101 豊能郡豊能町吉川336-1
TEL:072-738-3435
- 北摂こども文化協会西天満事務所
〒530-0047 北区西天満9-8-4朝日プラザ西天満101
TEL:06-6948-5380

Home Page URL <http://hokusetsukodomo.com/> ※検索サイトからは、「北摂こども」で検索!



2013年9月14日・15日 ひと泊まるごとプレイパーク2013

もくじ

ベネズエラに学ぶ ～子どもの力を引き出す～	2・3
今求められる大人の役割とは	4・5
子育てエッセイ：やまGの育G日記	6
コラム☆おすすめの本／エッセイ	7
イベント・行事案内／入会案内／編集後記	8

ベネズエラに学ぶ ～子どもの力を引き出す～



今回、遠く地球の裏側にある南米ベネズエラの取り組みをご紹介します。

皆さんはベネズエラという国名を聞いて何を思い浮かべるでしょうか。南米のどこに位置しているか正確にわかりますか。おそらくベネズエラについて詳しく知っている人は少ないのではないかと思います。

日本人にはなじみの薄いベネズエラですが、そこでは画期的な音楽教育により、貧困の世代間連鎖を断ち切り、犯罪や暴力を防止する「エル・システム」という取り組みが行われています。エル・システムはなんと30万人以上の子どもたちが参加するオーケストラ活動です。子どもたちといってもその幅は広く、下は2歳半の幼児から上は青少年、30歳近い若者まで、国をあげて参加しています。

エル・システムは、無料で音楽の基礎知識や楽器の演奏技術を教え、子どもたちにオーケストラに参加する機会を与える教室です。オーケストラ教室としては単一組織で世界最大であり、青少年オーケストラ組織としても、数万人が「合奏」に参加する規模のものは世界でも類をみません。運営は、国立財団ベネズエラ児童青少年オーケストラシステム（FESNOJIV＝フェスノフィフ）が行っています。

FESNOJIVは1979年に設立され、今日まで34年間にわたり、ベネズエラ全土で子ども・青少年に対してエル・システムの事業を展開しており、現在もその規模を拡大しています。

このエル・システムで主眼とされていることは

- 子どもたちをオーケストラに参加させ、犯罪や非行に走るのを防ぐこと
- 演奏技術を身につけさせることで将来の仕事に道を開くこと
- 「オーケストラ合奏」という共同作業に参加させることで、他人との協調性を養い、団体行動、社会規範を学ばせることです。

今、イギリスやフランスをはじめとする欧米諸国、そして日本でも、子どもの貧困が課題となり対策が議論されていますが、経済後進国と言われるベネズエラが行うこの「音楽で貧困を救う社会施策」は子どもの力を信じ、その力を引き出す素晴らしいものだと感じます。

教育評論社から2008年に出版された『エル・システム』（著：山田真一）の中で、いくつか事例が記されていますのでご紹介します。

ベネズエラには貧困地区（通称ランチョ）が数多くあります。そこは誰の許可もとらずに、勝手に山の斜面に家々が作られており、もちろん水道、電気、ガスなどインフラは整っていません。そこで暮らす子どもたちは、食事を満足に摂れないことも珍しくありません。当然治安も悪く、その著書の中では、部外者、特に外国人が足を踏み入れるような所ではなく、誘拐にあったとしても文句は言えないとのこと。誘拐されているのに文句も言えず、逆にこっちに非があるようで驚きです。

ランチョにはギャングメンバーや麻薬密売者なども多く住み、たとえその地区の者でも常に拳銃の脅威にさらされ、夜に外出するなどは無謀な行為だそうです。

しかしベネズエラのエル・システムでは、そのような貧しく危険なランチョに暮らす子どもたちでも音楽教室に通い、オーケストラ活動に参加できるのです。

4歳からエル・システムの音楽教室に通っている、ランチョ在住のある少女は「ここに来ると必ず友だちに会えるし、一緒に練習するのが楽しい。友だちと一緒に音を出して、それが一つのハーモニーになったり、リズムになるのを聴くととっても興奮するの！」と小学生ながら既にオーケストラ合奏の醍醐味を、十分理解しています。

また別の青年は、危険なランチョから音楽教室までの道のり自体を「ある種冒険みたいなもの」と言います。しかし彼は「エル・システムは自分の生活です。辞めたら生きる術を失くしてしまいます。それにオーケストラはあまりに魅力的です。それはどういうところに暮らしているからとか、そんなことは関係ありません。」と彼にとってオーケストラがいかにかけがえのないものになっているかがうかがえます。

さらにはランチョの中で犯罪を重ねていた側の少年についても触れられていました。

彼は9歳でタバコに手をだし、12歳の時にマリファナ、コカインなどにはまり、13歳の時には拳銃も手に入れました。店舗などで強盗を重ね、2度の逮捕を経て、ロスチョロスという所の少年保護センターに収容されました。その時に出会ったのが、エル・システムの音楽教室であり、クラリネットでした。

彼にはクラリネットが「とても優雅で、真っ当なもの」に見え、その練習は彼にとって「初めての、幸福な時間」になりました。

ロスチョロス少年保護センターの職員はこのオーケストラプロジェクトについて言います。「ここで起こっていることは本当に信じがたい成果です。こうした子どもたちでも、人を感動させる演奏ができるのです。」

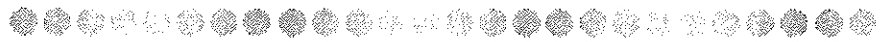
経済格差や出身地域、経歴など関係なく、子どもの可能性を信じ、能力を引き出すのがエル・システムです。

現在、このエル・システムで育った世界的な音楽家が来日し演奏を行っています。9月24日・25日には、エル・システムから世界に羽ばたいた指揮者グスターボ・ドゥダメルが、大阪フェスティバルホールでタクトを振りました。10月10日～12日には東京芸術劇場で14歳～22歳までの計175名の若者で構成された「エル・システム・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」が初来日し「エル・システム・フェスティバル 2013 in Tokyo」が開催されます。

「銃の代わりに楽器を」を合言葉に、スラム街で合奏や合唱による心の調和を訴え、犯罪や暴力の連鎖から子どもたちを救う社会運動として始まったエル・システムは、日本でも福島県相馬市で実践されているそうです。日本でも放課後の学童保育が取り組まれています。もしエル・システムのしくみが入り入れられたら素晴らしいですね。

子どもたちの権利を保障する、素晴らしい実践、エル・システムに乾杯！

(理事長・立石美佐子)



今求められる大人の役割とは

前号に引き続き「子ども・若者支援」をテーマに、地域で子どもや若者に関わる大人の役割について考えてみたいと思います。後半では特に、児童文化センターの職員や放課後子ども教室の活動に携わるボランティアスタッフなど、遊びの場面で求められている大人の役割について、取り上げました。

●「指導」から「支援」へ●

参考文献：田中治彦・萩原建次郎編著『若者の居場所と参加—ユースワークが築く新たな社会』東洋館出版社（2012）

70年代から80年代に展開した「青少年育成」は、大人が「教育目標」を設定して子どもをそこまで「到達」させるという手法をとってきました。与えられた課題を克服することで、子どもたちは一つ大人に近づくと考えられてきたためです。

子どもたちは大人が考え出した目標に向かって一致団結し、忍耐と努力によって共に苦難を乗り越え、見事目標を達成する。個人は集団の一員として役に立つ貢献を果たし、目標達成に向けて苦勞を共にした子どもたちは信頼し合える仲間となる。

子どもたちにとってこの達成感・満足感が何よりの褒美でした。

そして大人の役割は、子どもたちがこのような体験を積むことができるように道筋を作り、指導することでした。

ところが現在は、「指導」よりも「支援」へと、求められる大人の役割に変化が生じています。子どもや若者が自ら考え目標を見出し、大人はそれを側面から支援します。大人の役割は、子どもや若者にも権限を与え、子どもや若者が大人と共に参加できる環境づくりです。キーワードは「関わり」と「参加」。

大切なのは、プログラムを完遂させることよりもむしろ、プログラムを行う過程で起こり得る変化に目を向けること。プログラムを通じて子どもや若者の間、あるいは子どもや若者と大人との間に、関わり合いが生まれているか。活動にやってくる子どもや若者が、自分のペースで自分なりのやり方でその場に加わっているか。活動にやってくる子どもや若者なりの、関わりと参加がその子のペースで育まれるように、支援することが関わる大人の役割です。



●放課後子ども教室の“指導”員●

2007年に教育再生会議が「社会総掛かりで子どもの教育にあたる必要がある」との方針を打ち出し、「放課後子ども教室」事業が始まりました。

本事業では学校の教室や校庭等を子どもたちの安全で安心な活動拠点（居場所）として解放し、放課後や週末において、子どもたちにスポーツや文化活動等の様々な活動を提供します。この運営には地域の大人たちが多数加わります。

さて、ここで重要となる点が、地域の大人たちの子どもへの関わり方です。ある市町村の資料では、「地域の大人たちが、安全管理員、指導員として協力」することによって本事業が遂行されると示されていました。指導員は、お手玉やめんこなどの昔遊び、図工や折り紙や読み聞かせ等の文化活動、サッカー等のスポーツ、パソコン等の操作を教え合うなどの活動を用意し、指導します。

確かに、子どもたちが安全に活動できるように危機管理することは大切ですし、子どもたちの遊びが豊かになるように支援することは有効ですが、見方を変えれば、子どもたちの放課後や休日の遊びの世界が大人主導で進められているということになります。

●子どもにとっての遊び保障●

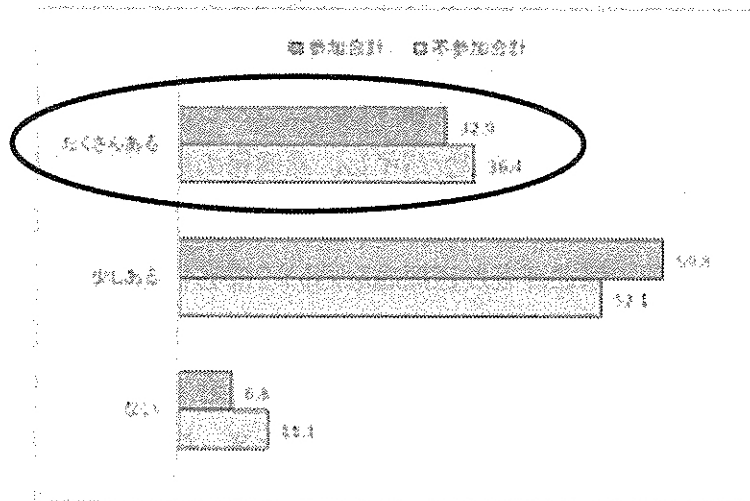
調査1によると、放課後子ども教室に参加する過半数の子どもが「放課後子ども教室は自分たちで自由に遊ぶことができ楽しい所・色々な遊びができて楽しい所」と答えています。ところが、放課後子ども教室に参加している子と参加していない子の回答を比べてみると、参加していない子の方が、「遊ぶ時間がたくさんある」と答えています。

つまり子どもたちは、放課後子ども教室はたくさん遊べるのに必ずしも遊びの時間がたくさんあるとは思っていません。ここに大人が整備する遊びと子どもが求めている思いと間でズレが生じている可能性があります。子どもたちは、自由に時間を使って友達と好きなことをして過ごす時間を求めているのではないのでしょうか。子ども主導の遊びを保障する役割が大人に求められています。

注1) さわやか福祉財団主催早稲田大学文学学術院増山均教授研究協力「放課後の遊びについてのアンケート調査」

問1 遊ぶ時間

放課後子ども教室参加不参加別（4校合計）



（理事・立石麻衣子）

やまの育の日記 その16 ～思い出ぼろぼろ～

長女が5歳、長男は2歳になり日々賑やかな我が家。最近子どもたち2人だけで遊べるようになっており、まるっきり目を離すことはできないものの、基本娘にまかせて好きなように遊ばせている。そんな子どもたちの姿を見ているとほほえましくなり、自分の子どもの時を思い出したりする。

僕は姉1人、兄1人の3人姉弟の末っ子である。末っ子ということで姉兄にはよく遊んでもらった記憶がある。特に兄は男同士なので一番の遊び相手であり、色々頼りになる存在であった。自転車に乗れるようになったのも、分数の割り算ができるようになったのも兄のおかげと思っている。

しかし思い出せば思い出すほど、いろんな被害も受けてきたなあと苦い記憶がよみがえる。僕が幼稚園の頃、まだ新興住宅地だった家の周りは空き地が多く、毎日毎日これでもかというほどバッタやおおろぎを捕まえていた。家に帰ると母親は「絶対家の中に持ち込まないでよ！」と震えていたが、そんなこたあ知ったこっちゃない僕は虫かごいっぱいのおもちゃを眺めて「大漁♪大漁♪」と満足だった。そんなある日、兄から最高のビッグニュースが飛び込んできた。

「おいすごいぞ！ カブト虫よりもおっきくて、虹色に光る虫がおったわ！」

「ほんまに！？ どこで見たん！ 噛まれへん？」

「すぐそこの信号で待ってたら一瞬やけど見えたわ！ 学校の先生に聞いたら『しんごうむし』という虫らしい。信号が赤の時、捕まえるチャンスやって！」

「ほんまに！？ まだおるかな！？ ちょっと行ってくるわ！」

ご丁寧にデタラメな『しんごうむし』のイラストを持たされ、幼児の僕は炎天下の中、虫取り網と虫かごを持ってスタンバイし、赤信号のたびにドキドキしていた。

一般の通行人には僕がどう映っていたかを考えると悲しくなる。

死ぬほど汗をかき無念な思いで帰宅した僕をケラケラケラーと、からかいながら笑った兄の顔をいまだに覚えている。その晩兄はサザエさんのカツオのように怒られていた。

しかしちょっとやそっとのお仕置きではへこたれない兄はその後、

「赤ちゃんてお母さんが寝てる時、頭がパカッと割れて出てくるんやで。」

「ほんまに！？ お母さん痛くないの！？ 頭ってすぐくっつくん？」

「お前出てきたときは大変やってん。なかなかくっつかんかった。」

「ほんまに！？ めっちゃ痛いやん！？ つぎはいつ出てくるん？」

「多分今日あたり出てくるんちゃうかな。お前お母さんが寝てる時見といてみ。なかなか出てこーへんときはおもっきし鼻押ししたれ。」

その晩満を持しておもっきし鼻を押した時の「んごあああっ！」と叫び目を見開いた母の顔をいまだに覚えている。次の朝兄はカツオをはるかに超える勢いで怒られていた。

そのように大小合わせいろんなイタズラをされて、いっぱいケンカもしたが、今は家族としてのいい思い出として残っている。

娘と息子もこれからいっぱい遊び、いっぱいケンカもするだろうが、ひとつでも多く家族の思い出を作ってくれたらと思う。

(理事・山路知之)

おすすめの絵本

ようやく、秋の気配が漂ってきました。ほっと一息、秋の夜長を楽しんで下さい。秋色の絵本たちをご紹介します。

『くずのはやまのきつね』

作 大友康夫・西村繁男 絵 西村繁男
福音館書店

狐の嫁入りがある年は豊作だとか。飢饉が続く村の兄弟が狐に嫁入りを頼みに山へ出かけます。ようやく収穫を迎えおにぎりを食べる村人、子どもの嬉しそうな顔。昔の農村生活が伝わってきます。西村繁雄さんのデビュー作。

『はないくさ』

作 小林保治 絵 平山英三 福音館書店

能(金剛流)から題材をとった作品です。京の都、子どもたちが白菊の花を摘みに野原へ出かけます。花々の精が繰り広げる秋の夢。残念ながら絶版なので図書館でどうぞ。

『もりのかくれんぼう』

作 末吉暁子 絵 林明子 偕成社

ロングセラー絵本。金色の秋が詰まっています。迷い込んだ秋の森、動物たちとかくれんぼを楽しんで下さい。表紙にも誰かがかくれんぼしています。

『どんぐり』

作・絵 こうやすすむ 福音館

どんぐりの成長を描いた科学絵本です。公園で拾うどんぐりってどんな風に育って木になるのでしょうか。自然の仕組みの不思議を覗いてください。

『かかしのじいさん』

作 深山さくら 絵 黒井 健 偕成出版社

かかしのじいさんの仕事は雀を追っ払うこと、でも雀にはいいようにあしらわれています。気難しいじいさんとすすめたちの切なく、心温まるストーリー。

『もりのまつり』

文・画 中谷千代子 福音館書店

けんちゃんの家は牧場です。けんちゃんは牧場の動物たちと年に一度の動物の祭りに夜の森へ出かけていくのです。焚火に赤々と照らされて踊る動物達の楽しそうなこと。

天国と地獄かな

人の体温を超える暑さのなかで奮闘していた夏でした。その暑い日に着ぐるみが活躍する演劇祭がありました。

8月7日から11日まで岸和田浪切ホールで「子ども演劇祭 | Nきしわだ」を今年も実施し、その時にゆるキャラの着ぐるみが登場しました。

実は大阪では来年3月に八尾市でも子ども演劇祭があるのですが、そこもゆるキャラが活躍します。八尾はポロンちゃん、岸和田はユメリンという名前です。

着ぐるみが誕生した経緯を説明しますと、毎年作るチラシにはマスコットのイラストを載せていて、最近のゆるキャラブームに乗ってそのイラストを着ぐるみにしようと演劇祭の事務局メンバーで盛り上がり、メンバーには人形劇団も参加しているので、それでは作りましょうかとなったわけです。ちゃんと製作費はいただきましたが。

作ったのはいいけど着ぐるみなんかに入る人いるのかなと思っていたところ、なんと取り合いになりました。

演劇祭の期間中も会場をうろろしているのですが、絶大な人気です。4・5歳の子たちはちらっと見ただけで「ユメリン」とか「ポロンちゃん」とか叫んで駆け寄ってきて、思い切り抱きついていきます。さすがマスコットキャラですね。

昔、人形劇団クラルテの仕事でオオカミの着ぐるみを連れて歩いた事があるのですが、その時は警備員状態でした。オオカミをみつけたら男の子が飛んできて、ここまでは同じですが、それからが大変。蹴るは殴るは、はては跳びげりまで入るのです。必死でオオカミを守った記憶があります。

悪い奴と思って殴ったのに抵抗してこないで、だんだん腹が立ってくるみたいで、ほんとに真剣にオオカミに向かってきていました。

幼児のウソとホンマの境目はどこにあるんでしょうね。ほんとに不思議な人たちです、幼児は。着ぐるみに入った大人はしばし現実を忘れ別の自分を感じているのでしょうか。着ぐるみ人形は大人にも子どもにも夢を与えるのかな。夏の着ぐるみの中は地獄やけど。



本番直前の様子

(会員・尾カ望)

(人形劇団クラルテ・松本則子)

イベント・行事案内

おひげっ HALLOWEEN FESTIVAL

フェスティバル

10月27日(日)

①おりがみでハロウィン工作

【時間】11:00~14:00 (※正午~午後1時までは一時休止)
【対象】だれでも

②おばけかぼちゃのランタンづくり (要事前申込み)

【時間】14:30~15:30 対象=市内の幼児4歳~小学生
【定員】先着10名(3年生以下は保護者同伴)【費用】300円

③ハロウィン仮装 ~Trick or Treat!~

【時間】11:00~15:00 【対象】だれでも
【内容】仮装をして事務所に来てね!合言葉「トリック・オア・トリート」で記念撮影とお菓子のプレゼント!
※撮った写真は後日館内に掲示します。

④こども会議企画「ハロウィンおばけやしき」

【時間】13:30~15:00
【対象】だれでも ※参加者にはお菓子のプレゼントあり

会員随時募集中!!

「もっと自分らしく」を合言葉に、北摂こども文化協会は活動しています。

年会費:◆正会員(総会議決権あり)10,000円

◆賛助会員 個人 一口 3,000円

団体 一口 5,000円

法人 一口 10,000円

第13回 大阪高校生 演劇フェスティバルin池田

2014年(平成26年)1月25日(土)

開 催 決 定

お問い合わせ・お申し込みはこちらまで

●北摂こども文化協会事務局

TEL:072-761-9245

FAX:072-761-9244

E-mail:hokusetsukodomo@wombat.zaq.ne.jp

第13回 北摂太鼓集団 フェスティバル

とき=2014年3月16日(日)

場所=豊能町立ユーベルホール

編集後記

台風が例年にも増して猛威をふるいました。台風18号の影響で、特に京都は桂川や鴨川などが氾濫し、大きな被害が出ました。日本という国は地震、竜巻、台風と自然の猛威にさらされ、それゆえに困難を乗り越えるための忍耐強さなどが国民性として培われたのでしょうか。

そんな中、東京オリンピック開催決定というビッグニュースもありました。最終プレゼンテーションの場で日本特有の「おもてなし」をPRし、見事IOC委員の心を掴んだようです。5歳の娘もそれに感化されたようで、我が家でおもてなし精神を発揮しています。それはそれでいいんだけど、庭の草を引き抜いて、「どうぞ、プレゼント」というのは少し……、いやかなり違うような気がする今日この頃。(山)